平成27年11月定例会

小平・村山・大和
衛生組合議会

日 時 平成27年11月20日（金）

場 所 小平・村山・大和衛生組合議場

小平・村山・大和衛生組合議会

平成27年11月定例会

日 時 平成27年11月20日（金）

場 所 小平・村山・大和衛生組合議場

1. 出席議員（12名）

1 番 佐 藤 充	2 番 竹 井 よ う こ
3 番 平 野 ひ ろ み	4 番 幸 田 昌 之
5 番 尾 崎 利 一	6 番 関 田 貢
7 番 中 野 志 乃 夫	8 番 中 間 建 二
9 番 内 野 直 樹	1 0 番 遠 藤 政 雄
1 1 番 須 藤 博	1 2 番 比 留 間 朝 幸

2. 欠席議員（0名）

3. 出席説明員

管 理 者 小 林 正 則	副 管 理 者 尾 崎 保 夫
副 管 理 者 藤 野 勝	助 役 山 下 俊 之
会 計 管 理 者 長 塩 三 千 行	事 務 局 長 村 上 哲 弥
総 務 課 長 藤 野 信 一	業 務 課 長 小 暮 与 志 夫
計 画 課 長 木 村 西	参 事 (施 設 整 備) 片 山 敬
総 務 課 長 補 佐 利 光 良 平	

議事日程（第1号）

- 第 1 会期の決定
- 第 2 会議録署名議員の指名
- 第 3 諸報告
- 第 4 議案第 10号 平成26年度 小平・村山・大和衛生組合一般会計
歳入歳出決算の認定について
- 第 5 議案第 11号 平成27年度 小平・村山・大和衛生組合一般会計
補正予算（第1号）
- 第 6 議案第 12号 東京都市公平委員会を共同設置する地方公共団体の
数の増加及び東京都市公平委員会共同設置規約の変
更について

午前9時30分 開議

○議長【関田貢】 皆さん、おはようございます。本日は開議時間を30分早めまして9時30分といたしましたのでご了承願います。

また、議事終了後、事務報告及び管理者報告を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

ただいまの出席議員数は11名であります。定足数に達しておりますので、ただいまから、小平・村山・大和衛生組合議会11月定例会を開会いたします。

これより本日の会議を開きます。

お手元の議事日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。

日程第1 会期の決定

○議長【関田貢】 日程第1「会期の決定」を議題といたします。

お諮りいたします。会期につきましては本日1日限りといたしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長【関田貢】 ご異議なしと認め、そのように決定いたしました。

日程第2 会議録署名議員の指名

○議長【関田貢】 日程第2「会議録署名議員の指名」を行います。

会議録署名議員につきましては、「会議規則第77条」の規定により、議長から指名申し上げます。

2番 竹井ようこ議員

7番 中野志乃夫議員

10番 遠藤政雄議員

以上、3名の方をお願いいたします。

日程第3 諸報告

○議長【関田貢】 日程第3「諸報告」を行います。

諸報告につきましては、平成27年7月及び10月に行いました、当衛生組合一般会計出納検査の結果でございます、お手元に配付いたしました印刷物のとおりでございます。

日程第4 議案第10号 平成26年度 小平・村山・大和 衛生組合一般会計歳入歳出決算の認定について

○議長【関田貢】 日程第4、議案第10号「平成26年度 小平・村山・大和衛生組合一般会計歳入歳出決算の認定について」を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。管理者。

○管理者【小林正則】 皆様、おはようございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。ただいま上程されました議案第10号につきまして、説明を申し上げます。

施設対策につきましては、主なものとして、施設の機能維持を図るための定期的な補修工事のほか、3号炉及び5号炉バグフィルターろ布交換工事などを行い、信頼性と安定性の向上に努めてきたところでございます。

3市共同資源化事業につきましては、組織市及び組合の4団体による協議を重ねるとともに、施設整備地域連絡協議会、及び住民説明会を開催したところでございます。

平成26年度のごみ投入実績は、前年度と比較いたしますと、可燃ごみは1,211トンの減、不燃ごみ・粗大ごみは、378トンの減、全体では、1,589トンの減量となりました。

いずれも適正処理が図られたところでございます。今後とも環境に配慮しながら、安定稼働と適正な処理を行ってまいりたいと存じます。

本案は、去る10月22日に監査委員の審査を受けておりますので、その意見を添えまして、ご認定を賜りたく提案を申し上げますのでございます。

具体的な内容につきましては、事務局長が説明いたしますので、よろしくご認定賜りますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○事務局長【村上哲弥】 お手元に「平成26年度小平・村山・大和衛生組合一般会計歳入歳出決算書」及び「平成26年度小平・村山・大和衛生組合一般会計決算附属書類」を配付してございます。

まず、決算書に沿いまして説明申し上げます。決算書を2枚おめくりください。

歳入の決算状況でございます。ここでは、合計額をもとに説明をいたします。表の下段、歳入合計の欄をごらんください。

歳入合計は、予算現額の16億4,956万8,000円に対しまして、調定額及び収入済額が、ともに16億4,927万2,157円となりました。不納欠損額、収入未済額はございません。予算現額と収入済額との比較は、29万5,843円の減となりました。

ページを1枚おめくりください。歳出の決算状況でございます。表の下段、歳出合計欄をごらんください。

予備費を含めた歳出合計は、予算現額の16億4,956万8,000円に対しまして、支出済額が16億1,519万3,487円となり、不用額は

3,437万4,513円となりました。執行率は97.9%、予備費を除いた実質の執行率は、99.1%で決算をしております。

ページを1枚おめくりください。左のページは、ただいま申しあげました歳入総額、歳出総額と、差引残額を記載したものでございます。差引残額の3,407万8,670円は、平成27年度に繰越をいたしました。

続きまして、歳入歳出の内容につきまして説明いたします。ページを2枚おめくりいただき、1ページ、2ページをごらんください。

歳入でございます。別にお配りしてございます決算附属書類の9ページ、10ページに具体的な内容を記載しておりますので、あわせてごらんください。

1款、分担金及び負担金でございます。分担金の総額は、ごみ処理事業の運営経費と施設整備基金積立金との合計から算出されており、各市の負担割合は10%が均等割、90%が平成24年度のごみ搬入量の割合から算出したものでございます。

次の2款、使用料及び手数料、1項1目、総務使用料は、組合敷地内に設置してあります東京電力の電柱、東京ガスのガス管防食装置及び自動販売機設置の用地使用料でございます。

次の3款、財産収入、1項1目、利子及び配当金は、職員退職手当基金、財政調整基金及び施設整備基金の積立金利子でございます。債券及び定期預金での運用を行いました。当初予算1,971万9,000円のところ、有利な預金への預けかえ、債券での運用に対する利子の増収があったため、88万3,000円の増額補正をいたしました。収入済額は2,060万3,537円でございます。

次に、4款、繰入金でございます。1項1目、財政調整基金繰入金は、当初予算で2億2,667万4,000円の繰入を予定しておりましたが、次の5款、繰越金の増及び6款、諸収入のうち雑入の増などにより、3,081万

2,000円の減額補正をいたしました。

次に、5款、繰越金でございます。平成25年度歳計剰余金の確定に伴いまして、2,305万5,000円の増額補正をいたしました。

次に、6款、諸収入でございます。1項1目、組合預金利子は、歳計現金から生じた利子でございます。

次の2項1目、雑入は、アルミくず、鉄くず等の売払い収入でございます。当初見込んでいた価格を上回る価格で売り払いができたことなどにより、644万2,000円の増額補正をいたしました。売り払い量が見込み量に達しなかったため、収入済額が予算現額を下回りました。

以上が、歳入の内容でございます。

次に、決算書の3ページ、4ページをお開きください。歳出でございます。ここでは、決算書に沿いまして、当初予算額及び補正予算額などを中心に説明をいたします。決算附属書類に記載の具体的な事業の内容、及び成果につきましては、後ほど説明をいたします。

初めに、1款、議会費でございます。議会の運営等に要する経費でございます。

次に、2款、総務費、1項1目、一般管理費は、職員の給料、手当等の人件費及び事務執行に要します経費等でございます。当初予算1億6,733万3,000円のところ、人事異動等による変動分などにより、304万5,000円の増額補正を行いました。

次に、5ページ、6ページにかけて、2目、財産管理費でございます。施設の運営・管理に係る保険料、各種基金への積立金並びに小平市への借地料が主な内容でございます。当初予算2億894万7,000円のところ、財政調整基金への積立の増などにより、1,195万9,000円の増額補正を行いました。

25節、積立金は、職員退職手当基金、財政調整基金及び施設整備基金の積

立金と、その利子でございます。

3目、公平委員会費は、共同設置しております東京都市公平委員会の負担金でございます。

次の2項1目、監査委員費は、主に監査委員の報酬でございます。

3項1目、余熱利用施設費でございます。こもれびの足湯の運営に伴います光熱水費、建物損害保険料、施設維持管理業務委託費等でございます。

次に3款、塵芥処理場費、1項1目、塵芥処理総務費は、業務課職員の旅費、研修参加費、小平市への地域環境対策負担金等でございます。

次に、2目、塵芥処理維持管理費でございます。施設の修繕・工事、最終処分場への焼却残渣と不燃物の運搬業務委託、ごみ焼却施設・粗大ごみ処理施設の運転業務委託、電気料等の光熱水費、各種原材料費など、ごみ処理業務全般の運営・維持管理に要した経費でございます。当初予算11億4,944万5,000円のところ、委託料、工事請負費、原材料費及び備品購入費で契約差金が生じたことなどにより、1,608万4,000円の減額補正を行いました。

次に、7ページ、8ページにかけて、2項1目、塵芥処理場建設費でございます。3市共同資源化事業に関する経費でございます。当初予算491万5,000円のところ、3市共同資源物処理施設生活環境影響調査（現況調査）に要する経費を新たに予算計上する必要性が生じたため、64万8,000円の増額補正を行いました。

次に、公債費でございます。全部で3件の起債について当初見込んだ額を予定どおり償還いたしました。内容につきましては、後ほど説明をいたします。

5款、予備費でございます。2款、総務費、1項2目、財産管理費、及び3項1目、余熱利用施設費へ208万円を充当いたしました。

ページを2枚おめくりください。実質収支に関する調書でございます。冒頭でも申し上げました歳入歳出の総額と、歳入歳出差引額等を記載したものでご

ございます。実質収支額の3,407万8,670円は、翌年度に繰越いたします。

次に、ページを1枚おめくりいただき、10ページをごらんください。財産に関する調書でございます。公有財産の(1)の土地及び(2)の建物ともに、平成26年度での増減はございませんでした。

11ページをごらんください。上段の表、物品については、平成26年度での増減はございませんでした。下段の表、基金につきましては、各基金へ積立を行い、財政調整基金では繰入金として支出をいたしました。

次に、決算附属書類に沿いまして、平成26年度の主な事業及び成果を説明いたします。決算附属書類の11ページ、12ページをお開きください。

(1)のごみ処理事業でございますが、3市から日々搬入される可燃ごみ、不燃・粗大ごみ等の処理を行うとともに、アルミなどの金属類は再資源化を行いました。

(2)の施設対策におきましては、施設の機能維持を図るための定期的な補修工事のほか、3号炉においてはバグフィルターろ布交換工事、NO.1ごみクレーンバケット更新工事、及び飛灰切出コンベア補修工事、4・5号炉では、5号炉バグフィルターろ布交換工事、計装設備及びごみピット投入扉の更新工事を行いました。

粗大ごみ処理施設では、耐震補強工事を行いました。

(3)の余熱利用施設では、平成26年度の足湯利用者は、推計7万3,000人ほどでございました。

右のページ、(4)の3市共同資源化事業におきましては、3市共同資源化事業に関する会議を開催し、協議を行いました。施設整備地域連絡協議会及び住民説明会を開催し、情報提供及び意見交換を行いました。

(5)その他の事業といたしまして、地域の方々との「連絡協議会」の開催、「えんとつフェスティバル」の開催、広報紙「えんとつ」の発行などを行いま

した。

13ページをお開きください。ページの下段、過去3年の搬入状況の表をごらんください。下段の合計の欄、一番右の列の搬入量でございますが、平成26年度は7万1,718トンほどで、平成25年度の7万3,307トンと比較して、マイナス2.17%、1,589トンほど減少しております。

ページを2枚おめくりいただき、15ページ、16ページをごらんください。

1款、議会費でございます。議会の開催では、定例会を2回、臨時会を1回開催いたしました。

2款、総務費でございます。職員関係経費では、職員の給料等を支払うとともに、職員健康診断、職員研修、職員採用試験などを行いました。

17ページ、18ページをごらんください。広報啓発事業では、広報紙「えんとつ」の発行、施設見学の受け入れなどを行いました。

住民協議機関の運営では、施設周辺にお住まいの方々と衛生組合との意見交換・連絡調整の場としての連絡協議会を開催いたしました。

地域共生事業では、「えんとつフェスティバル」の開催に伴い、補助金を交付いたしました。

中段の財産管理事務でございます。施設等維持管理のため、清掃業務、警備業務及び場内植栽業務を委託し、また、機器等保守整備のため、消防設備法定点検業務、エレベーター保守点検業務及び電話交換機等保守点検業務を委託いたしました。また、小平市から借りている土地の土地借上料を支払いました。

次に、各基金管理運用業務でございます。職員退職手当基金、財政調整基金及び施設整備基金について、有価証券または定期預金により管理運用をいたしました。

次に、監査委員費の出納検査及び決算審査でございます。出納検査を3回、決算審査を1回実施いたしました。

19ページ、20ページをごらんください。足湯施設の管理運営でございます。ボランティアによる植物の栽培及び花壇の設置、また、施設内の樹木剪定及び配管等の消毒を行いました。

次に3款、塵芥処理場費でございます。地域環境対策負担金でございますが、衛生組合周辺地域の環境整備を目的に、小平市へ負担金の支払いを行いました。

次に、ごみ処理事業でございます。20ページの中段の表でございますとおり、修繕料で73件、工事請負費で28件の補修工事を行いました。

下段の表の需用費、(1)消耗品費、1枚めぐりまして次の22ページの(2)燃料費、(3)光熱水費は、ごみ処理事業に関連する諸経費の内容でございます。

中段の表、3、委託料をごらんください。処理・処分等委託料は、焼却灰及び破碎不燃ごみの最終処分場への運搬が主な内容でございます。施設等維持管理委託料は、ごみ焼却施設及び粗大ごみ処理施設のプラント運転が主な内容でございます。その他、測定等の委託、機器等保守整備の委託がございます。

23ページ、24ページをお開きください。3市共同資源化事業でございます。平成26年度から平成28年度まで3カ年にわたる生活環境影響調査（現況調査）業務、及び平成25年度から平成26年度まで2カ年にわたる基本構想策定業務を委託いたしました。

以上が、平成26年度の主な事業及び成果でございます。

次のページ以降は、各種の参考資料でございます。27ページ、28ページをお開きください。組合債の状況でございます。上段の表をごらんください。

左端に起債の目的欄がございます。現在の起債は、ここに書かれている3件でございます。このうち、平成26年度償還額は、元金と利子を合わせまして、合計6,725万2,780円でございます。

未償還額は右のページになりますが、合計で6,967万5,718円でございます。

27ページの下の表は、借入額、年利率、借入先等の一覧でございます。

以上が、平成26年度一般会計歳入歳出決算の内容でございます。

○議長【関田貢】 説明が終わりました。質疑に入ります。

○5番【尾崎利一】 歳入歳出決算書の11ページの基金のところですけども、施設整備基金で、決算年度末現在額が21億2,493万3,000円ということになっています。以前、焼却施設についての説明を受けたときに、平成14年当時に焼却施設と粗大ごみ施設で174億円かかるという見積もりのもとに、平成15年から積み立てを始めたということでご説明がありました。今回つくる焼却施設について、トン当たり6,926万8,000円で、243トンとすると168億円かかる。200トンに抑えれば140億円になるというご説明をいただいたわけですけども、もうこれ、喫緊になるわけですが、現在、施設整備基金が21億2,493万3,000円ということで、建設費全体を施設整備基金と一般財源と、それから起債と補助金等でまかなっていくということになると思いますが、それぞれどれぐらいの額が見込まれてくるのかということが一つ。

それからもう一つは、トン当たり平均で6,926万8,000円の建設費だというお話だったんですが、ストーカ炉にするか、流動床式にするかで、こう単純に平均にというわけにいかないと思うんですが、その違いについて、数値で示せば数値で、ストーカ炉の場合はトン当たりどれぐらいで、243トンということ言えばどれぐらいになるのか。流動床式であればどうなるのかというあたりについて伺います。

○参事（施設整備）【片山敬】 焼却施設の検討については、現在、検討に入ったところございまして、具体的なところは申し上げるものはございません。

それから、流動床式とストーカ式でございますけれども、市場を見ますと、両方式ともどちらが高い、どちらが安いというようなところはないというふう

に認識しております。

○5番【尾崎利一】 伺っているのは、23区、都内のほうでもいろいろ再開発などが行き詰まるような状況が、要するに、工期が遅れることと、単価が上がって、このままいくと、もう保留床を区が買い上げないと、にっちもさっちもいかないのではないかなどという事態が生まれているようなところも出てくるということですので、やはり非常に誰もが心配するところだと思うんです。

現在わからないということですが、そうすると、少なくとも平成14年当時に174億かかるというふうに考えたときに、施設整備基金の目標額を決めて積み立てているわけですから、その段階でこの基金と今言った起債、一般財源、補助金をどういうふうに見込んでいて、こういう計画を立てたのかというのはわかるだろうと思うんです。そのときと今と変わっていることがあれば、どういう点が変わっているのかというようなことについて教えてください。

○議長【関田貢】 答弁者に申し上げます。議題から外れている内容もあるようなので、答弁ができる範囲内をお願いいたします。

○総務課長【藤野信一】 事業費の財源別の内訳というご質問があったと思いますけれども、総事業費が174億円と想定されております。焼却施設と粗大ごみ処理施設の建設と、それらの既存施設の解体費、合わせまして174億円ということです。そのうち国の交付金が約50億円ほど、それから、起債の額が87億4,000万円見込んでおります。この当時での積算ですが、平成14年当時は都の補助金がまだあったということでございます。今現在では都の補助金はございません。都の補助金そのまま一般財源に振りかえられますので、合わせますと約37億円ほど一般財源が必要というような計算になります。

○7番【中野志乃夫】 前回の議会でも質疑させていただいて、具体的な資料のお願いをしていたつもりだったんですけれども、再度、何もないようなので

お伺いします。

一応3月にごみ処理事業基本計画を策定して配られています。その段階の中の目指すべき将来像について、その中に具体的に3市共同資源物処理施設の整備というところに関して、具体的に計画書の中では施設を整備することにより、3市全体の資源化基準の統一が図れ、リサイクル率の向上や不燃・粗大ごみ処理施設、ごみ焼却施設の施設規模の縮小、建設費の縮減が見込めるほか、資源化に要するコストの低減、資源化に関する情報収集能力向上などが期待できるという、この箇所に関して、具体的にどう削減・縮小できるのかを数値として示せる資料を出してほしいということをお願いしていたんですけれども、まずその点はどうなんでしょうか。

○計画課長【木村西】 資源物処理施設に関しますコストということでございます。建設費に関するコストにつきましては、今年度、資源物処理施設の実施計画を策定する予定となっておりますので、その中でお示しをしていきたいというふうに考えてございます。

○7番【中野志乃夫】 今年度、具体化するということですが、この数値がここに書いた、これはもう期待値、願望としてこうなることを求めているということを書いたんですか。

つまり、普通ははっきりとここまで施設規模の縮小や建設費の縮減が見込めるほかとか、資源化に関するコストの低減、資源化に関する云々と具体的に述べているということは、当然根拠があって3市共同資源化施設をつくることによって、今の現状と比較して、これだけ規模的にも、つまり、ごみの規模がすごい縮減できる。また、そのために処理施設建設費用でも軽減できるということを書いてあるわけですから、当然根拠のある資料があった上で書いているんじゃないかと思うんです。じゃあ、これ、そうじゃないんですか。これからつくる、これからの結果を見て判断するということは、勝手に予測しているだけと

いうことで認識していいのでしょうか。

○計画課長【木村西】 そちらの計画にございます建設費用の縮減につきましては、3市で行うことによりまして、いわゆるスケールメリットという点で縮小が図れるということを示しております。

また、ごみ量の縮減につきましては、焼却の量を減らすというところで、資源物処理施設を建設することによりまして、ごみ量が減るというところで、そちらのほうには記載をしてあるところでございます。

○7番【中野志乃夫】 その程度の答えで、この基本計画をつくってよろしいのでしょうか。つまり、今、私が言っていることは、もうおとし市民に説明会をしたときに既に、3市共同資源物施設をつくることによって、どれだけ建設費や、またごみ処理量が減るのか、どう軽減されるか、市民からその時点で質問が出されているわけです。当然、私の判断で言うと、あのときの答えとすれば、これからいろいろ予算を立てて検討して、いろいろ資料を募ってやるから、そこで出しますというふうに私は受けとめていたんですけれども、当然、そういったことに答えられるだけの根拠ある数値がない中で、そもそもこうできますと計画をつくっていいんですか。基本計画ですよ。単なる願望でこうなるだろうという内容でつくれる計画はあり得るのか。そして、現状で私の認識しているのは、3市共同資源化施設をつくるよりも、現状の方式をそのままやったほうが、どう考えても建設費等の縮小、逆に言うと、つくることによってかえって負担が増加して縮小にならないんじゃないかというふうに、私は具体的な数値を出された上で判断しようと思っておりますけれども、そう思っています。つまり、無理やりあの施設をつくるのが縮小にならない。そもそもプラスチック等を中心ですから、量的に言ったら、ほんとうに微々たる量だと思うんです。そのことがこれからつくる焼却施設に影響するほどのものなのかということも、普通、常識的に考えたら、ほとんどないだろうと私は予測してい

ます。だから、その数値的根拠を示していただかないと、この内容が全く納得できないし、こんなことを書いてしまっているのという思いがあるんです。こういう計画書をもう既につくってしまっていますけれども、これは少なくともこれから内容を、その具体的な数値は出せない、今年度やりますというのだったら、ここは省くべきではないですか。どうなんでしょうか。

○計画課長【木村西】 まず、今の計画書でございます。今年3月に策定したものでございますが、こちらは組合の指針といいますか、内部に向けた計画、職員がどこへ向かって業務をしていけばいいのかというところを明確にするためにつくってある計画でございます。

その中で、先ほど、資源処理施設のことが触れられていて、それが焼却施設にどのように影響があるかというところでございますが、これはいわゆる上流から下流に処理をしていくという流れの中で、今、具体的に焼却施設のほうにもこれから検討していくところでございますけれども、その中で上流から下流へ処理を固めていく中で、焼却する量を少しでも減らすことによって、ごみ処理量は減るといふふうには考えてございます。

また、衛生組合のところで更新を今考えている中で、少しでも焼却量を減らすことが必要であるというふうには認識しているところでございます。

(「おかしいよ、議長、根拠があるかないかって聞いているんだから、あるのかわからないのははっきり言わないと、答えになっていないじゃない。根拠があるのかわないのかって聞いているんだから、ごみが減るといふ」の声あり)

○7番【中野志乃夫】 今おっしゃったとおり、ほんとうに具体的な数値的な根拠を示さないと市民に説得ができないんです。こうなりますから、じゃあ、納得してくださいということを言うことができない。

それと、今の言い方だと、これ、職員でつくったと、これは内部資料なんですか。

(「そんなことないよね」の声あり)

○7番【中野志乃夫】 市民にこれは出さないんですか。あくまでも市民に向けた資料でなければまだいいですよ。出していないんですね、その言い方だと。それはどうですか。

○事務局長【村上哲弥】 まず、これは具体的な数字に基づいた記載なのかということですが、これにつきましては、一つ一つ数字を積み上げてこうなるというようなものでつくったものではございません。先ほどご説明をいたしましたけれども、例えば、今、老朽化している3市の施設をそれぞれがそれぞれの市で独自に建設し、同じような高度な環境対策施設を整えた場合よりも、一緒に資源化施設をつくったほうがコスト的に低くなるとの、一般的なスケールメリットの話によるものでございます。

それから、内部の職員に向けてつくった資料、主たる目的はそのためでございますが、情報公開の時代でございますので、ホームページでは公開をしております。また、組合議員に対しましては、先日までございますけれども、説明をさせていただいたところでございます。

○7番【中野志乃夫】 ホームページにも公開しています、ただこれは数値根拠もなく、ある面、願望を述べているだけというので、普通だったら認められない、そんなもの、なんでつくって公表するんですかという話ですよ。

済みません、あともう1点聞かせていただきますけれども、先ほども上流、下流という言葉が出てきました。こういった廃プラスチックの処理の仕方に関して、はっきり言って、視察も行っていますよね。そして、視察先の磐田市での説明のとき、私も大変興味深く向こうの担当者から聞きましたけれども、向こうの担当者の方に言わせれば、上流、下流という、そういう発想はないですよ、そういう関係なく、当然そもそも最初は焼却施設の規模を考えて、そのもとで全てリサイクル施設等も考えるという話があったと思います。さらに、ち

ようどうちの市が、組合議会が磐田市の組合に質問書を出して、その答えでも、容器プラのリサイクルは、処理方法は、単にリサイクルすればよいというのではなく、容器包装リサイクル法の趣旨を考慮しつつ、全環境影響（ライフサイクルアセスメント）等、費用総額を踏まえた検討をする必要があると、そこまで丁寧に回答を寄せていただいています。これを受けて、そうすると、うちのやっていることと大分違うことがはっきり視察先で述べられたことについての検証はどうされたんですか。視察は行った先で終わりですか。いろいろ質問書も出して、受けた答えはそれでもう終わりでもいいんですか。

○議長【関田貢】 答弁者に申し上げます。議題から外れている内容もあるようなので、答弁できる範囲内をお願いいたします。

○計画課長【木村西】 組合議員での視察の件でお話をいただきました。今現在進めております資源処理施設の3市共同資源化事業でございますが、これは資源化をする方法、あるいは焼却する方法というのは、以前にもご答弁をさせていただいたと思いますけれども、やり方はあるかと思いますが、資源化をしていく、拡大生産者責任の考え方によって資源化をしていくということで、これは3市で決めたことによるものでございます。これに基づいて、現在、資源化を推進していくということで事業を進めているところでございます。

また、見学先のところでは、そこの地域の事情といいますか、考え方で事業は進めていると思われませんが、現在、この3市で行っています事業は、ただいま申し上げました考え方で進めているものでございます。

○7番【中野志乃夫】 私が望んでいる答えは返ってこないようなので、管理者に伺います。

先ほど言ったように、このごみ処理事業基本計画、数値的な根拠はなくて、こういうふうを書いて、管理者としてもこれでオーケーなんですか。問題ないんですか。

○助役【山下俊之】 基本計画に書いてあることは、私どもといたしましても、大筋としてはそれで間違いがないと、ごみ量が第一段階、要するに、先に資源物として減量されたものが、残ったものが焼却施設分に入るというこの事実は変えようがございませんので、この焼却施設の更新という一大事業を控えている中で、そのことを否定することはできない、そういうことでございます。

○7番【中野志乃夫】 ちょっと言っている趣旨がまた違うんですけれども、別に私は、ごみ分別、いろいろリサイクルできるものはリサイクルする、その方式に関して否定しているつもりはありません。つまり、現状でも民間委託等でちゃんとやれている、そこでうまく処理されている、しかし、それをあえて3市共同でやるということの根拠について、また、それがほんとうにリサイクルにつながる、つまり、ごみの縮減につながるのかと、経費的にもそれが効率的と言えるのかどうかということを知っているんです。

けれども、今の助役さんの答弁だと、大筋そういう方向になっていると、その根拠はどこなんですか。数字的に教えてください。

○助役【山下俊之】 3市の衛生組合といたしましては、構成する各市からの基本的な考え方に基づいてこの計画を立てたものでございます。したがって、3市がそれぞれで資源物として処理するよりは、一括してやっていただきたいという方向が示された、その結果としたものをこの基本方針としてまとめたものでございますので、そのところはひとつご了承いただきたいと思います。

○7番【中野志乃夫】 やっぱりちょっと言っている意味が違うんですけれども。3市で共同でやりましょうはいいですよ。そこまでは。だけど、ここには具体的に、リサイクル率の向上や不燃・粗大ごみ施設、ごみ焼却施設の施設規模を縮小できる、建設費の削減が見込める、明確に言い切っているわけですから、資源化に要するコストの低減もできますみたいな、そこまで

言い切った文章を載せてしまっていて、そのことと3市共同でやりましょうという話は別として、なぜそこまで言い切れる内容を書いたのかということ。ですから、そのための、当然、先ほどの言い方ですと、根拠がある上で書いたというなら、その根拠を示していただかないと、市民に説明できないということですのでけれども、再度お願いします。

○管理者【小林正則】 この数値を具体的な数字で出してほしい、あるいはそれが無いと書くべきではないかということ、一般論としてはよくわかります。それは別に、私、ここに座っているから言うわけではない。それはどういう立場であろうと、その方向性は私は全く同じだと思います。

ただ、今回やろうとしているのは、東大和さんは民間でやっておられますし、小平は直接やっていますし、武蔵村山さんは委託でやっておられて、それぞれやり方が違うわけですね。それを一つまとめて、民間の場合は、もし何か事故があったり、あるいは経営的な問題があったりして、必ずしも将来にわたって保証されているわけではないわけです。そういった今の資源化の流れ、あるいは資源化をできるだけ力を入れながら焼却負担を減らしていくという、この方向では3市一致しておりますので、そういう流れの中で、将来にわたって安定的にやっていく、そして3市で共同でやることによるスケールメリットもありますし、全体でやっていることによって広報の仕方も変わってくるし、市民の皆さんの意識づけも、全体3市でやることによって意識づけも変わっていくだろうし、そういったトータル、いろいろもろもろの取り組みの中で事業効果があらわれてくるだろうし、それがそういった書きぶりになっているのだろうと、私はその効果は必ずあらわれるというふうに思っておりますし、また、そのことでなければ、ある意味で、やる意味がないですから、そういう意味で今後とも引き続き、3市で合意していますし、4団体でこの方向性で進めていくということを確認しておりますので、ぜひご理解いただければというように

思っております。

○7番【中野志乃夫】 趣旨として言わんとしていることはよく理解できます。けれども、今、実際に管理者自身も、つくることによって数字的にごみ縮減につながるという期待値を込めて言っていますけれども、もしそうじゃなければ、つくらなくてもいいということですよ、逆に言うと。つまり、3市のメリット云々というか、共同でやることはもちろんそうですよ。だけど、今、リサイクルの方向も変わりつつあります。単にリサイクルする、それを目的にするのではなくて、ライフサイクルアセスメントに環境負荷も含めて、それがどうなのかという流れが変わっている中で、リサイクルするだけで共同すればよくて、そっちの環境負荷がより増して、かえって環境的にもよくないという結果はおかしいという流れになっている中で、数値的にいろいろ調べてみて、もしそういう結果ができたなら、やっぱり見直すべきだという認識でよろしいんですよ。

○管理者【小林正則】 繰り返しになりますけれども、我々が合意している内容は、ごみ減量。もちろんごみ減量だけでやっているわけではありませんよ。これは不燃・粗大もやっていますし、焼却もやっていますし、ですから、個々の施設の目的だけでやっているわけではない。トータル、この構成3市が抱えている資源物や、あるいはごみ処理、こういった環境問題をトータルで我々はやっているわけでありまして、ごみが実際にそんなに減らないじゃないかといったら、その施設は意味がないじゃないかということではなくて、もっとトータルに考えてもらって、例えば、ごみ減量や、あるいは分別の品目の問題だって、あるいは、今、小平市はまだ無料で収集していますけれども、こういった収集、運搬、処理、処分、こういった体制も3市が足並みをそろえることによってトータルで環境問題に大きく前進するというふうに思っております。

○7番【中野志乃夫】 いずれにしても、数値的な根拠がなかなか出せない中で、トータルでということをおっしゃっていますし、トータルでは確かにそう

かもしれないけれども、個別、極めて具体的なことで、3市共同資源物をつくることによってという、トータルと言いますけれども、私の発想で言うと、逆にそれをつくることがかえって環境負荷を与える、むだな経費を使う、ただでさえ、東大和市だけなんではなかろうか、わかりませんが、予算的には大変厳しい財政運営の中で、これから焼却炉をつくるに当たって莫大な費用がかかる、そのことを考えたら、この3市共同資源化施設に十数億かける、さらに運営費で毎年数億かける、そのことを踏まえたら、やはり市民の方もなかなか納得できないと思うんです。ですから、その点でやはりここは見直すべきだということを、とりあえず答弁はそれ以上出てこないのがわかりましたから、とりあえずそういうことを述べておきます。

○8番【中間建二】 私は今日、決算審査に当たりまして資料要求させていただきました。資料配付がありましたけれども、私がお願いしたのは、3市が今それぞれ取り組んでいる資源化事業、いわゆるリサイクルに取り組んでいる、ごみ減量に取り組んでいる事業の内容と、また、その費用がわかるものということで資料要求させていただいたんですけれども、この資料では、取り組んでいる項目はわかりますけれども、具体的にそれぞれの程度費用をかけてコストがかかっているのかというのが、この資料ではわからないので、議長、申しわけないんですけれども、この資料について、再度、出し直すように指示をしていただきたいと思いますけれども。

○議長【関田貢】 ここで暫時休憩いたします。

午前10時26分 休憩

午前10時35分 再開

○議長【関田貢】 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

答弁をお願いします。

○計画課長【木村西】 今回提出させていただきました資料につきましては、

3市で現在行っている内容を組合のほうで資料として持っておりましたので、提出をさせていただきました。

一方、費用につきましては、組合では把握してございませんので、そういった資料がないことから、今回の内容の資料となっているところでございます。

○8番【中間建二】 費用の資料がないということですがけれども、先ほどの中野議員の質疑にも関係するんですけれども、それぞれ3市で今、別々にリサイクル資源化事業をやっているものを、共同で処理しようというわけですから、そのことによってスケールメリットもあるんだ、また、コストも低減できるんだということをずっと組合では言ってきたわけじゃないですか。そうすると、これ、3市でそれぞれやっている事業の内容を精査して、また、それにどの程度現状でリサイクルに関して費用がかかっているのかということ、3市が当然事業をやっているわけですから、3市が協力すれば出てこないはずはないかと思うんです。その数字すら組合が持っていなくて、それで共同処理したらスケールメリットがあるとか、コストが低減できるとかということには全くならないんじゃないかなというふうに思うんですけれども、なんで、ずっとこのコストの削減とか、ほんとうに共同処理することでどんな成果があるんですかということは、組合議会の中で何年も何年も言われてきたし、私も東大和市議会の中では、このことを何度か取り上げた中で、東大和市議会では、当然コスト比較もやるんですということで答弁もされていたので、この組合の推進本部等の会合では、そういう発言も当然あったかと思うんですけれども、それがなんでいまだにこういう個別のリサイクルにどれぐらい費用をかけているのかという数字すら組合が押さえていない。なおかつ、資料が出てこないように、比較検討すら、いまだになされていない、堂々とここで資料も出てこないし、説明もされる。こういう状況でごみの減量だとか何だとかと言われても、全く説得力がないというふうに私は思うんですけれども、この点について、組合と

してどういうふうに考えていらっしゃるのかお尋ねしたいと思います。

○事務局長【村上哲弥】 3市共同資源化事業でございますけれども、そもそもスタートということになりますと、基本構想の中にもございますけれども、小平市は、現状、各施設は老朽化が進んでおり、処理能力の制約もあることから、容リプラの資源化は、プラスチック容器（硬質のもの）に限定せざるを得ない状況となっております。

東大和市におきましては、現在稼動しているリサイクル施設は、暫定的に建設した施設であり、施設の老朽化を抱えているほか、都市計画決定の施設でないため、処理能力の上限が1日5トン未満に制限され、処理品目の追加や処理量の増加に耐えられない状況となっている。このため、容リプラの資源化は民間委託により実施しており、早急な対策が求められています。

武蔵村山市におきましては、独自のリサイクル施設を保有しておらず、民間事業者と協定を結び、処理を委託しているため、委託先の意向によっては処理が継続できなくなるなど、安定したごみ処理の継続性が不安定な状況です。そこがスタートでございます。

そして、コスト比較といたしましては、建設費につきましては、先ほど申し上げましたけれども、実施計画で示す予定でございます。そして、今の各市がいろいろと問題を抱えている中でのコストと、今後、更新をする施設を単純に比較してどちらが高いかということでコスト比較ができるのだろうか。現在置かれている状況は、コスト比較の対象として中長期的に安定継続したシステムなのだろうかということもございまして、なかなか単純な比較はできないのかなと考えております。

ただ、何回も申し上げおりますように、コスト比較は非常に大事な点だと思いますので、税金を活用して整備を行うわけですので、そのために建設費について実施計画の中である程度の条件が整いましたらお示しをしたいというふう

に考えているところでございます。

○8番【中間建二】 コスト比較は大事だと思っているとずっともう何年も前から組合ではそういうふうにおっしゃっているんですけども、だけれども、いまだに比較した内容が出てこないという現状を見たときに、とても公金というか、税金を投じてやる事業として、できるだけむだを省いていく、効率的な運営をするという姿勢は、申しわけないけれども、私は全く感じられません。これは現実的に数字が出てこないわけですから、また、先ほど、中野議員の質疑でもありましたように、願望として減るだろう、成果が、効果があるだろうという根拠しかない、具体的な数字の根拠はありませんと、はっきり先ほど説明されてしまうわけですから、それでコストについて厳密に慎重に判断していますと言われても、とてもじゃないけれども、私は納得できません。

今、事務局長にご答弁いただきましたように、今年度には、この実施計画を、3市共同資源物処理施設整備の実施計画の中で、費用対効果の分析も行っていくということになっておりますけれども、これが26年度、コスト比較を検討した実績が全くない、資料が出てこないということはないということですから、26年度、全く比較検討がなされていない中で、27年度に出てくる費用対効果分析というのは、どういうものが出てくるのでしょうか。

○参事（施設整備）【片山敬】 交付金に伴って求められている費用対効果分析というのは、施設整備に限って、施設整備の費用対効果について行うという定めがございまして、内容については、国の通知「廃棄物処理施設整備事業に係る費用対効果分析について」というものに従って行うこととなっております。

○8番【中間建二】 そうしますと、結局のところ、今回の実施計画においても、結局3市が今それぞれ別々でリサイクル資源化事業をやっていることと、今回、公設で2品目のみ東大和市の土地を使って公設での処理施設をつくったとしても、果たして効果があるのかどうかということは、今回、この後出てく

る実施計画の中でも、結局はわからないということになりますと、果たして、先ほど事務局長からご答弁いただいたようなコスト比較とか、できるだけ効率的な税金のむだ使いをなくしていくということは、全く見えないというふうに理解をいたしました。

あともう1点ですけれども、伺いたいのは、この26年度に基本構想が正式に策定をされて、その基本構想の説明会等もなされ今日に至っているわけですが、この基本構想について、私は何度か組合議会の中では、そこに基本構想を策定する手続の段階で、本来は地域住民の理解を得た後に事業に着手すると4団体で合意した内容が全く守られていない、合意がないにもかかわらず事業化を進められてきているということに対しては、おかしいですねということで、賛同できませんということで、決算にも反対をし、大変申しわけない、ごみ処理事業を進めてもらわなければいけないんですけれども、今年度の予算執行にも反対をいたしました。

それで、これは今、基本構想の説明のときに、私、改めて説明会の議事録も見ましたけれども、これ、今、東大和市の想定地の住民だけが疑問を呈しているとか、反対の声を上げているのではなくて、例えば、小平市の20年間ずっと小平のごみの減量化とか、ごみの問題に対して取り組んできた団体も、今の進め方はおかしい、また、事業が見えない、コスト比較がない、見えないということ、基本構想の説明会の中でも述べられているし、また、小平市や組合に対してもそういう働きかけがあるというふうに私は認識をしているんですけれども、決して桜が丘の東大和市の想定地の周辺住民だけが何か心配しているのではなくて、結局のところ、小平市の住民にも、武蔵村山の住民にも、なかなか今の3市共同資源化事業や、また3市共同資源化施設の必要性についての理解が、26年度の取り組みでは進んでいないというふうに認識しているんですけれども、その点についていかがでしょうか。

○計画課長【木村西】 26年度に行いました基本構想の説明会の中で、3市の会場で説明会等を行ったところでございます。その中では、質問の意見、内容等につきましては、基本構想に関する内容というよりは、必要性や立地などに関する意見も多かったところでございます。

その中で、今おっしゃられたような進め方ですとか、そういったところへのご意見もあったことは事実でございますが、一方で、その計画に対する、特に反対はしないというようなご意見等も聞かれたところでございます。3市の中で説明をした中では、そういった状況でございました。

○8番【中間建二】 私が議事録を精査した中では、皆さん、懸念の声を上げておられる、東大和市だけではなくて、小平市の住民の方も、この中島町の住民の方も心配されているというふうに私は議事録を読んだ限りは理解をしております。

それで、3市の市民の理解が進んでいない中で、この基本構想、3市共同資源化事業や3市共同資源物処理施設の建設がなかなかやっぱり進まないんじゃないかなというふうに受けとめております。今日は決算の審査ですので、議事録を見ますと、組合の管理者である小林市長のほうから、議会の同意が得られることが住民の理解を得ているという根拠になるんだというようなご説明がなされていたかと思えます。そういった意味では、大変申しわけないですけども、今の進め方について、私は議員として疑問を呈しておりますし、また、今日は決算ですので、この今のようなコスト比較がない、また、説明に対しての根拠も願望であるということがはっきり事務局のほうでご説明されている中で、26年度の決算については、とても認定ができる状況ではないんじゃないかなというふうに受けとめております。東大和市だけの今の問題ではなくて、これからさまざまな事業でお金がかかっていく公共施設のあり方について、それぞれ3市が見直ししていかなければいけない状況の中で、果たしてほんとうに必

要なのかどうか、成果、効果があるのかどうか不明確な施設にお金を使っていくということについて、組合議会として明確に意思表示をしていかなければ、今度、議会のほうも、議員のほうも責任が問われてくる深刻な状況ではないかなというふうに受けとめております。

○5番【尾崎利一】 決算附属書類の24ページのところで、3市共同資源化事業基本構想策定業務委託にかかわってですけれども、この平成26年度に3市共同資源化事業基本構想策定業務委託がかかったということについては、経過が大変私は一つ重要視、経過と内容があるんですけれども、経過についてまず伺いたいと思います。

それで、この事業が進むに当たって、直前の経過もあるんですけれども、東大和市が使っている桜が丘の用地、ここに3市共同の資源物処理施設を建設するということが決まったのは、私は平成19年の理事者合意だと思っていましたけれども、最近の説明によると、平成27年の理事者合意で決まったんだというご説明で、私はこれは大変驚いたわけです。この理事者合意に基づいて、その後、具体的なものがまとめられて、衛生組合として説明した際に、桜が丘を想定地というふうにされて、想定地はどういうことなんだというふうに聞くと、ここにつくと決めたわけではないんだと。仮にここにつくとすると、こういう姿になるよという説明なんですという説明がされていました。ですから、あそこに建設されるということについては、公にあまり知らされないという状況のまま当初推移したんです。ですから、今、周辺住民の方々に反対されている方々の中には、そういうことがあの時点でわかっていればマンションを買わなかったんだと、ちょうどマンションがつくられた時期ですからね。そういう憤りの声も多数寄せられるという状況が現にありました。

その後、この組合議会では、3市共同資源化施設建設計画に関する十分な説明と情報の開示及び同施設建設計画の進め方に関する陳情というものが出され

て、平成21年4月30日に趣旨採択されています。趣旨採択でしたけれども、議会としての意見がつけられました。陳情要旨にある「私たち住民が満足できないとき」という文言は主観的であり、陳情にはそぐわない。しかし、陳情に記された項目について誠実に実行すべきである。この項目は、建設の必要性について、用地選定の合理性について、健康環境被害への懸念、それから交通問題への懸念等々、6項目あったと思いますけれども、そういうものが平成21年、今から6年前に議会としても意見をつけて趣旨採択をされているということがあったわけです。

この間、周辺住民の方々にどれだけこういうことが説明されてきたのかということが一つ経過の中ではあるわけですがけれども、この今の基本構想策定の経過に、ちょっと今、事前のことも言いますけれども、問題にしている経過について言いますと、平成25年1月8日に、3市長4団体の理事者で基本事項確認書が交わされて、整備するに当たって想定地周辺地域住民の理解を得ることを前提とし、協調して事業を推進する。周辺地域住民の理解を得た上で事業に着手していくということが合意された。その後、周辺住民の方々の理解を得られたとは言い難いという認識を示しながら、しかし、必要だという説明を8月に行って、8月30日の臨時議会に補正予算が組まれて、基本構想案策定、そして26年、基本構想策定業務委託というふうに進んでいったわけです。

これらの経過を見ると、当初から十分住民に正面から説明をして理解を得るという姿勢がやはり欠けていたのではないのかということが一つと、それから、直前のことについて言えば、25年1月8日の理事者合意、これは理事者間の合意ですがけれども、当然、市民や周辺住民に対する約束です。これが覆されて理解が得られていないのに強引に進めるということで予算計上もして進めてきたという、これら一連の経過について、どう認識されているのかということが1点。

それから、内容についてですけれども、この平成25年8月20日の周辺住民への説明の中では、何がなんでもやろうということではないんだと、住民の皆さんに理解してもらったしっかりした数値、資料を基本構想の中でも示していきたい……。

○議長【関田貢】 質問者に申し上げます。簡潔に質問をまとめてください。お願いします。

○5番【尾崎利一】 ということで説明がありました。東大和市議会でもVOCについての数値や交通量についての数値もその中で出していくんだという説明もあったんですけれども、実際にこの基本構想がそういうしっかりした数値を出して、周辺住民に対する、もしくは3市市民に対する説明を十分できるような数値をこの中で示されたのかどうか、私は示されていないと考えるわけですから、その2点について認識を伺います。

○計画課長【木村西】 この3市共同資源化事業の推進につきましては、25年1月8日に確認書ということで、その後、この確認書に基づきまして住民の説明をさせていただいたところでございます。

その後、報告書の中で理解が得られた状況ではないというようなことでまとめましたが、平成25年8月に、この事業の推進につきましては、3市が安定的にごみ処理事業を行っていく上では必要不可欠な施設であるということで、事業を推進することについては表明をさせていただいたところでございます。

その後、同年、25年11月29日に確認書を交わしまして、現在はこれに基づきまして事業を進めているところでございます。その中で基本構想の策定を行いまして、現在、それに基づきまして、今年度は資源物処理施設の実施計画、それから不燃・粗大ごみ処理施設の基本計画を策定する予定となっております。

○参事（施設整備）【片山敬】 VOCについての基準というお話なんですけれ

ども、今のところ、示せていない状況にあります。極めて微量な物質であること、それからまた、どのような物質がどの程度出ているのかという調査をする必要がまずあるかということがあります。環境影響調査の中で現況を調査し、今後、実際に発生する量がどの程度かという測定を行いまして、その中で検討していきたいというふうに考えてございます。

○5番【尾崎利一】 4団体で交わした平成25年1月8日付の基本事項確認書、そうすると、これについては、私が引用した部分については、履行されな
いまま破棄されたという認識でいいのかどうか、これが1点。

それからもう一つは、今、VOCの問題で示せていないという答弁がありましたけれども、結局、周辺住民に理解してもらう数値を出すために基本構想をやる、次には環境影響調査をやると言いながら、実際には交付金手続をどんどん進めて事業を進めていくというふうに私には見えますが、そういうことではないのかどうか伺います。

○参事（施設整備）【片山敬】 VOC調査につきましては、計画書の段階から協議をお願いしまして、地域住民との協議の中で計画内容を決め、それから、その中で出てきた項目について、実際の実機で調査を行う。それを今後、メーカーのほうにどの程度まで落とせるのかというような検討を依頼して、そういう手続で進めていこうと思っております、地域住民の方には、その都度、データをお示ししたり、相談をしながら協議をしているところでございます。

○計画課長【木村西】 事業の推進でございますが、繰り返しとなりますが、現在は25年11月29日に確認書を交わしてございます。これに基づきまして事業を進めているところでございます。

○5番【尾崎利一】 11月のことを伺っているのではなくて、1月8日の基本事項確認書についての認識を伺ったんです。

○事務局長【村上哲弥】 平成25年1月8日の3市共同資源化事業に関する

基本事項について、3市市長及び組合管理者の合意でございますが、これは、この状況におきまして、しっかりとした説明をしていかなければいけないということで、住民の理解を得ることを前提とし、協調して事業を推進するということで行ったものでございます。

そして、説明会を開き、推進本部でそのことについて議論をし、3市共同資源化事業の重要性、必要性について再認識をして、平成25年11月29日に、同じ3市長、そして組合管理者が合意をしたわけです。ですから、反故にしたとか、そういうことではなくて、状況を見極めて、再度その状況の中で新たな合意を行ったということでございます。ですから、今はそれに従ってこの事業を進めているところでございます。

○5番【尾崎利一】 今ご説明がありましたけれども、そうであるならば、理解を得た上で事業に着手するという文言も1月8日の確認書には示されているわけで、これは今の説明では、私は納得はできないということだけ言わせていただきます。

○9番【内野直樹】 先ほど来、出されています3市共同資源物処理施設に関して私も質問させていただきます。

資源物の処理施設の必要性は認識はしているところなんですけれども、この間のやりとりも含めて、あえて3市で共同する必要があるのか等と、あと、場所をあそこに、桜が丘地域に決めていいのかどうかというところを、この間のやりとりを通じて私はすごく疑念が沸いてきているところです。

そもそも平成25年の基本事項の確認書では、想定地域の周辺住民の理解を得ることを前提とすると。そして、協調して事業を推進することが確認されている一方で、ほかの方も言われていましたけれども、別途この作業が進んでいるというところで、仮にこれが武蔵村山に建てられたときに、私は市民の代表として市民に対してどう説明をしたらいいのかなと、小平にもし建てら

れた場合に、小平の代表の方たちはどう説明するのかなというのが非常に疑問を感じているところです。

そういう点で、施設に対してのコストカットにつながるんだというような根拠がないということもありましたけれども、この間の住民に対して、どのような理解を深めていっているのか、今出されているもの以外にあるのであれば出していただきたい。根拠も含めてまず出していただきたいと思います。

○計画課長【木村西】 3市共同資源化事業の進め方ということでございます。平成26年2月に3市共同資源物処理施設整備地域連絡協議会を設置させていただきました。ここで建設に向けた施設の姿ですとか、環境対策などにつきまして協議をするということで設置をさせていただいておりますが、26年度末までに13回開催をいたしております。今年度10月末現在で延べ20回開催したところでございますが、おおむね月1回のペースで会議を開催をさせていただいております。

11月現在、資源物処理施設周辺の自治会、あるいはマンション管理組合の方で、20団体32名で構成をされている協議会でございますが、こちらでの会議のほかにも、施設見学会、あるいは勉強会を実施しまして、住民の方々には理解を深めていただけるよう努力をしているところでございます。

今現在は、この協議会、引き続き開催しておりますが、より具体的な施設のことを協議している中で、協議会の中では前半、後半に分けて、いわゆる立地ですとか、必要性につきましても、毎月開催される会議の中で、前半、後半に分けてそれぞれ議論をしているところでございます。

○9番【内野直樹】 協議会がつくられてというのは、こちらのほうでも勉強会だとか、見学会だとかというのが書いてありますのでわかるんですけども、一つは、マンションだとか近隣住民に限った協議会をしているというところでは、武蔵村山、小平を含めて、その協議会に入っていないわけですね。私た

ちがそれを知る機会はないわけです。さらに言うと、その中で理解が深められたかどうか、不安を解消できているのかどうかという説明はなかったように感じるんですけども、そこら辺はどうなんですか。

○計画課長【木村西】 協議会の中での説明でございます。住民の方が特に心配をされております先ほども出ましたVOCの話ですとか、そういったことがございますが、これは勉強会などを開催しまして、化学物質に関する勉強会ということで、そういったものも開催しながら、不安については少しでも取り除けるように努力をしているところでございます。

理解が深まったかどうかというところでございますが、先ほども少し申し上げましたが、反対をしている方は確かにいらっしゃいます。一方では、反対ですけれども、建てるのであれば、いいものをとか、あるいは行政のやることなので反対はしませんというような意見も聞いております。そういったような状況でございます。

○9番【内野直樹】 必要性に関しては私も認識していますし、多くの方が利用するものなので、処理施設が必要か必要じゃないかというところは、それほど議論の余地はないんじゃないか。ただ、人体への影響がどうなのか、あとは、その被害が出てきてしまったときに、先ほどもありましたけれども、あの地域の土地の価格がどうになってしまうのか、補償はどうになってしまうのかも含めて、いろいろ不安を感じているところだと思うんですけども、その点に関しては調査があまり進んでいないように私は先ほどのやりとりを通じて感じているんですけども、一方で進められているということを踏まえると、先ほど来、出されている住民の理解を得ることを前提として協調して事業を推進するという立場は果たしてとれているのかなど。これがさっきも言いましたけれども、桜が丘に今想定で進められているけれども、武蔵村山に建てられたときに、今の出されている資料だけで、説明だけで、武蔵村山の住民を私は説明、説得ができ

る自信がない。もしそういうことができるような材料があるんだったら、もう少し出していただきたいんですけども、いかがですか。

○事務局長【村上哲弥】 今のご質問でございますけれども、地域連絡協議会を開催する中で、かなり詳細な、特に環境面ですとかの資料については出し、説明をさせていただいているところでございます。

と申しますのは、住民の方は、やはり環境に対する影響ですとか、あるいは、臭いですとか、そういうところに対する不安が大きいと考えております。

そのためには、どうやって臭いを防ぐか、外に漏れないようにするかであるとか、あるいは、こういう化学物質が現在大気にあって、それが施設ができたとしたらこうなるんだと、そういうような説明がどうしても必要になってまいります。それらのことに関しまして、現在、毎回時間をいただきまして、丁寧な説明をしているところでございます。

○9番【内野直樹】 これまで日本の中ではいろいろな公害病が出てきたと思うんですけども、その当時ではわからなかった物質によって、いろいろな人体への影響、被害が出てきているわけです。だから、今の技術で最善を尽くしますから大丈夫ですと言っているけども、まだ特定できていない物質による被害が出てくる可能性が否定できないわけですね。そういう調査、これからするような、しないような、ちょっとよくわからなかったんですけども、そういう状況の中で、今既にあの地域には人が住んでいる、計画経過を聞いてみると、どこに建てるか決まっていますよという中でマンション購入をされた方もいると。そういう中で、実際に建てられた後で健康被害が出てきて、当時は何も問題ありませんでしたでは説明がつかないと思うんです。

そういう中で今の話をこれ以上やってもあまり意味がないと思いますけれども、私も到底納得はできないと思います。

○3番【平野ひろみ】 この決算の附属書類に基づきまして、何点か伺いたい

と思います。

歳入のところで、雑入なんですけれども、10ページですが、この26年度の雑入の中で、何か特徴的なところがあればお示しいただきたいと思います。小型家電の売払金なども入ってきているので、そのようなところもあるかなというふうには思っているんですけども、そちらのほうで特徴的なところがあればお示しく下さい。

それから、ごみ処理施設の補修工事のことですけれども、20ページに工事の概要が書いてありますけれども、粗大ごみ処理施設や廃水処理施設などの修繕の金額、件数なども増えているかと思います。それで、この補修工事については、やらなくてはならない、もともとわかっている工事も含まれているかと思うんですけども、そうではないところで老朽化しているところでの補修工事が増えてきているのだらうなというふうに想像しているんですけども、その辺のところをもう少し具体的に工事の内容について伺えればと思います。

それからあと2点ありますけれども、先ほどの3市共同資源化施設のところでは、地域の方たちと協議会を立ち上げて丁寧に話し合いの場を持って勉強会などのことも今お示しいただきました。それを重ねてきているのだらうなというふうに思います。内容のご披瀝もいただきましたけれども、この後、このような協議会をどういう形で進めていかれるのか、また、市民の方から、その中で出ているこれからのことについての内容がもしお聞かせいただけるようなことがあれば、出していただければと思います。

それから、環境のところでお伺いしたいんですけども、環境測定のところですけれども、ちょっと私もこれ、わからないんですけど、近いところで、ほかの組合のほうで、焼却炉の廃棄物の中で水銀の濃度が検出されたということがありました。小平・村山・大和衛生組合の施設でもそういったことがあるかもしれないということも含めて、水銀の含有ごみについてのことは、どのように

捉えているのか。また、そういった検査をしているのかどうかを含めてお伺いできればと思います。

以上4点です。

○業務課長【小暮与志夫】 それでは、順番に、雑入のところで、今年度の特徴点はどうかというご質問にまずお答えいたします。

特徴的なところは、やはりご指摘のとおり、小型家電の売り払いというところが、量的にも26年度から増えてきてございます。25年度までは、粗大ごみで出てきている主に家電品の中でDVDプレーヤー、ラジカセ等、こちらで非常に状態のよいものはリユースということで進めてまいりました。25年に小型家電リサイクル法が施行されまして、これを受けまして組合では、26年度から組合の資源化の中の一つとしまして、粗大ごみで入ってきております小型家電に該当する製品につきまして、法律の小型家電リサイクル法のルートに乗せた形での資源化を始めました。

実績としましては、小型家電のリサイクルとしてルートに乗せた量が141.27トンとなっている状況でございます。

続きまして、補修工事に関してご説明をさせていただきます。

施設のほう、やはり老朽化が進んできておりまして、組合のほうでも施設の状態を見ながら、来年度、必要な工事、補修について検討して当初予算に載せさせていただいておりますが、そのほかに、今までではなかなか考えられなかったようなトラブルも発生しているのが事実でございます。

26年度の例で言いますと、決算附属書類の中で20ページに、右の下段に表かございますけれども、この中で工事請負費という項目がありまして、件数が28件と一番下、計のところ記させていただいておりますけれども、これは、当初予算時は14件の補修工事を予定しておりました。そのほかに突発的な故障等がありまして、こちらに対応するために結果として28件の補修工事

となっております。

続きまして、環境に関するところをお答えさせていただきます。

水銀の濃度が近くの焼却施設で検出されたという状況は把握してございます。組合におきましては、この水銀の濃度につきましては、25年に水俣条約がつくられまして、その後、国内法が整備されているところでございまして、まだ細かい基準値等は示されていないところでございますが、組合につきましては、排ガスにつきましては、26年度までは測定をしておりません。今年度は、27年度より、現状の数字を把握するというを目的に調査する予定にしております。

それから、水銀に関しては、焼却炉の中で燃焼状態等で発生するものではありませんので、まず一番大事なことは、ごみの中に入らないということが第一義的に重要なところだと理解しておりますので、今後も3市のほうにはいろいろ協力いただきまして、ごみの搬入が、入らないような形で協力をお願いしていく所存でございます。

○計画課長【木村西】 地域の協議会の今後ということでございます。現在、先ほども申し上げましたが、協議会の中では二分割といいますか、前半、後半に分けまして、施設に関すること、また一方では、必要性であるとか立地に関することをやっている状況でございます。

こういう中で今年度は、生活環境影響調査を意識調査でやっておりますが、これらの結果などを随時情報提供しながら、今後の中では環境対策のことであつたり、あるいは、今、臭気のことを、臭いのことを非常に心配されているような状況でございますので、これらのところにつきましても、施設見学を交えながら具体的に協議を進めていきたいというふうに思っております。

あとは、プラザ機能につきましても具体的なところで協議を進めていきたいというふうに考えております。

○3番【平野ひろみ】 ありがとうございます。

小型家電のことは、リサイクル法のルールに沿ってということで、資源化の1つとして、また新たな取り組みにもなってくると思いますので、これからも引き続きお願いいたします。

それから、補修工事のところですけども、やはり26年度がそうだったように、この後もまた突発的なこういった補修工事が出てくるものだというふうを考えます。やはり焼却施設の建て替えに向けて今準備を進めているんですけども、それまでの間、突発的な補修工事だけでなく、何か大きな事故にならないよう、きちんと整えていっていただきたいなというふうには思いますけれども、今後も今回のこの決算の費用が大分かさんだということも含めて、これからも同じような補修工事の金額的にはかかっていくのだろうなというふうには思うんですけども、その辺のところは、組合のほうではどのように考えていらっしゃるのかをもう1回確認させていただければと思います。金額的なところでお伺いできればと思います。

それから、水銀のことはわかりました。ごみの中に入らないようにといったところで、結局、市民側のごみの出し方だったり、業者の出し方だったりというところにかかってくると思うんですけども、その辺の具体的なやり方がもし示せるのであれば教えていただければと思います。

それから、3市共同資源化施設の協議会、今後も環境調査の報告ですとかを丁寧にやっていっていただきたいということと、やはり健康被害のことについては、住民の方たち、一番気にしていらっしゃる場所だと思いますし、これからの長期的な、どういったごみの処理をしていくのか、市民の方と一緒に考えて、やっぱり市民の方たちの行動力がないと、ごみの減量は進みませんので、やはりその辺のところを丁寧に進めていっていただきたいと思います。私もこの協議会に傍聴に行っていないので、なかなか内容がわからないところなんで

すけれども、引き続きお願いできればと思います。

あわせて、できればそういった協議会の内容について、もうちょっとほかの小平市民や武蔵村山の市民の方たちに向けても、こういった内容で話し合われているとか、先ほどの勉強会のことについても、ぜひ公表していただきたいなというふうに思います。ホームページでは出されているのかもしれませんが、できるだけ情報共有できればというふうに思っていますので、そのようなことも含めて、これから引き続きお願いできればと思います。これは要望で結構です。

○業務課長【小暮与志夫】 まず水銀のことに関して先にご説明させていただきます。

先ほども少し触れましたけれども、水銀は、ご存じのとおり、常温では液体で揮発性が非常に高いものですから、焼却炉の燃えるごみの中に入りますと、ほぼガス化をしていくという金属であります。水俣条約の条文の中に、大気への放出の規定の条文がありまして、この中では、焼却施設についても、石炭火力や石炭ボイラー等と並びまして、規制の対象となるということが考えられます。先ほども申しあげましたように、ごみとして入ってくると、ガスのほうに移行していくものであろうと考えられますけれども、今の一般廃棄物の焼却施設は、ダイオキシン対策としてバグフィルター等を使っておりますので、排ガスの温度を下げることであったり、バグフィルターを通すということで、一定程度の除去の効果があると文献等にも言われておりますので、組合としましては、市民にお願いするとともに、ダイオキシン対策を十分とっていくということとで対処するように考えてございます。

それから、補修工事に関してですけれども、今後も同程度の費用はかかっていくと考えられます。当初の予算で組み上げるときは、焼却施設をいつまで使うのか、その辺も十分考慮しながら考えて内容を決めておりますけれども、そ

ういった中で市民の収集がとまらないように、また環境に影響がないような形で十分な設備対策を検討して進めていきたいと思っております。

○10番【遠藤政雄】 済みません、わからないのでお聞きしたいんですけれども、この共同資源処理場なんですけれども、これ、建てるという最終的な決定というのは、いつごろの時期、いつごろ最終的に建てるか建てないか決めるのでしょうか。お聞きします。

○計画課長【木村西】 この3市共同資源処理施設の建設でございますが、これは平成25年8月に、3市の市長、組合管理者から事業の推進について表明をさせていただいたところでございますので、今後はその計画に従いまして事業を推進していくという状況でございます。

○10番【遠藤政雄】 じゃあ、この処理場を建てる建てないの採決というのは、もうとらない、もしくはこういう予算の場で決めていくという解釈でよろしいわけでしょうか。

○管理者【小林正則】 それでは、私のほうから。先ほど、この間、3市の合意あるいは組合を含めた4団体の合意は既に行っておりまして、行政サイドとしてはそれで進めていこうという合意のもとにさまざまな計画が今進行しております。その中に予算であったり、議会の同意を、皆様のご理解を得る場というのはこれからさまざまあろうかと思っております。ですから、そこは住民の皆さんへの説明をしながら、住民の理解も得る。当然、最終的な議決機関は議会でございますので、皆さんに全てお諮りをして進めていくということでございます。

○10番【遠藤政雄】 なぜこの点をお聞きしたのかというと、今、さまざまなお話を聞いて、施設が、建物が大変、市民の理解を得ることも大変、そういうことを一つ一つわかるんですけれども、ただ、私の武蔵村山市のことで大変恐縮でございますけれども、今、武蔵村山市は、民間で委託をしている部分が

あります。それに対して、それぞれの皆様がおっしゃっていたとおり、比較検討ができないというのは非常に、私、個人的には判断が迷うなというところがございますので、今後、皆さんもおっしゃるんですけども、コスト的な比較はしっかり今後出していただけないと判断ができないと思いますので、ぜひそこは丁寧をお願いしたいと思います。答弁は結構でございます。以上でございます。

○議長【関田貢】 ほかに質疑はございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長【関田貢】 質疑を終了することにご異議ございませんか。

(「質疑なし」と呼ぶ者あり)

○議長【関田貢】 それでは、質疑を終了いたします。

討論に入ります。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長【関田貢】 討論なしと認めます。

[10番遠藤政雄議員退場]

○議長【関田貢】 直ちに採決いたします。

日程第4、議案第10号「平成26年度小平・村山・大和衛生組合一般会計歳入歳出決算の認定について」、本案を原案どおりに認定することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○議長【関田貢】 挙手多数によって、本案は原案のとおり認定することに決定しました。

[10番遠藤政雄議員入場]

日程第5 議案第11号 平成27年度 小平・村山・大和 衛生組合一般会計補正予算（第1号）

○議長【関田貢】 日程第5、議案第11号「平成27年度小平・村山・大和衛生組合一般会計補正予算（第1号）」を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。管理者。

○管理者【小林正則】 ただいま上程されました議案第11号につきまして説明を申し上げます。

本案は、ただいま、ご認定をいただきました平成26年度一般会計歳入歳出決算剰余金が確定いたしましたことなどにより、補正を行うものでございます。

歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ747万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ16億5,747万2,000円とするものでございます。

歳入につきましては、5款、繰入金を減額し、6款、繰越金を増額するものでございます。歳出につきましては、2款、総務費を増額するものでございます。

補正の内容につきましては、事務局長が説明いたしますので、ご決定賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○事務局長【村上哲弥】 お手元の補正予算書の表紙を1枚おめくりください。右のページ、第1条に記載のとおり、歳入歳出予算の総額にそれぞれ747万2,000円を追加し、予算総額を16億5,747万2,000円とするものでございます。

4ページ、5ページをお開きください。歳入の内容でございます。

まず、6款の繰越金をごらんください。補正前の額の欄にございます2,000万円は、26年度の剰余金として繰越を予定していた当初の歳入額で

ございます。

一方、剰余金の確定額は、3,407万8,670円で行ったので、当初予定額の2,000万円と確定額の3,407万8,670円との差1,407万8,670円を追加するものでございます。補正額は1,000円未満を切り捨てた1,407万8,000円を計上いたしました。

ページを1枚おめくりください。歳出でございます。

積立金では、平成26年度剰余金を財政調整基金へ積み立てするものでございます。

ただいま、歳入で説明いたしました繰越金の補正額3,407万8,000円の2分の1の額を積み立てることとなります。補正額としては、1,000円未満を切り上げた704万円を計上してございます。

委託料では、足湯施設内に枯れた樹木があり、足湯利用者の安全を確保するため、樹木を伐採する経費を計上するものでございます。

前のページに戻りますが、5款の繰入金は、9月1日に予備費で支払った退職手当に充てるため、職員退職手当基金繰入金を増額し、歳出補正額合計747万2,000円と均衡させるため、財政調整基金から繰入額を減額したものでございます。

以上で補正予算の説明を終わります。

○議長【関田貢】 提案説明が終わりました。質疑に入ります。

(「質疑なし」の声あり)

○議長【関田貢】 質疑を終了することに、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長【関田貢】 それでは、質疑を終了いたします。

討論に入ります。

(「討論なし」の声あり)

○議長【関田貢】 討論なしと認めます。直ちに採決いたします。

日程第5、議案第11号「平成27年度小平・村山・大和衛生組合一般会計補正予算（第1号）」、本案を原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○議長【関田貢】 挙手全員。よって、本案は原案のとおり可決することに決定いたしました。

日程第6 議案第12号 東京都市公平委員会を共同設置する地方公共団体の数の増加及び東京都市公平委員会共同設置規約の変更について

○議長【関田貢】 日程第6、議案第12号「東京都市公平委員会を共同設置する地方公共団体の数の増加及び東京都市公平委員会共同設置規約の変更について」を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。管理者。

○管理者【小林正則】 ただいま上程されました議案第12号につきまして、説明を申し上げます。

本案は、青梅市及び浅川清流環境組合から、職員の利益の保護と、公平な人事権の行使を図っていくために、平成28年4月1日から、東京都市公平委員会への加入の依頼がありましたことから、共同設置する地方公共団体の数の増加及び規約の一部改正について提案するものでございます。

以上が、本案の内容でございます。

○議長【関田貢】 提案説明が終わりました。質疑に入ります。

（「質疑なし」の声あり）

○議長【関田貢】 質疑を終了することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長【関田貢】 それでは、質疑を終了いたします。

討論に入ります。

(「討論なし」の声あり)

○議長【関田貢】 討論なしと認めます。直ちに採決いたします。

日程第6、議案第12号「東京都市公平委員会を共同設置する地方公共団体の数の増加及び東京都市公平委員会共同設置規約の変更について」、本案を原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○議長【関田貢】 挙手全員。よって、本案は原案のとおり可決することに決定いたしました。

以上で、本日の議事日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、小平・村山・大和衛生組合議会11月定例会を閉会いたします。

午前11時43分 閉会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

小平・村山・大和衛生組合議会議長 関 田 貢

小平・村山・大和衛生組合議会議員 竹 井 ようこ

小平・村山・大和衛生組合議会議員 中 野 志乃夫

小平・村山・大和衛生組合議会議員 遠 藤 政 雄